



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月3日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社
コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部長兼管理部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	9,515	65.2	1,150		1,302		838	
2022年3月期第1四半期	5,758	112.0	759		311		191	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 880百万円 (%) 2022年3月期第1四半期 193百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	26.96	
2022年3月期第1四半期	6.16	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	27,466	20,274	73.8	651.52
2022年3月期	27,470	20,356	74.1	654.15

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 20,274百万円 2022年3月期 20,356百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		30.00	30.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	19,180	60.4	1,850		1,870		1,220		39.20
通期	42,000	30.5	5,160	267.8	5,200	78.0	3,400	77.5	109.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) Honey Sucrey Limited

詳細は、添付資料P8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	31,121,520 株	2022年3月期	31,121,520 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年3月期1Q	2,239 株	2022年3月期	2,208 株
------------	---------	----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期1Q	31,119,289 株	2022年3月期1Q	31,119,345 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、3月下旬にまん延防止等重点措置が全面解除されたことで経済活動は正常化に向かい、3年ぶりに行動制限のない大型連休を迎えるなど、持ち直しの動きが見られました。一方、未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、原材料価格やエネルギー価格の高騰による物価上昇などにより、消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、日本中の人々の幸福と日本経済復活に貢献すべく、2022年経営スローガン「全日本リバイバル宣言」を掲げ、「プレミアム・ギフトスイーツ」の更なる美味しさの追求と品質の向上に拘り、売場徹底拡大、販売力徹底強化、年間イベント対策による需要喚起、インバウンド復活に向けた準備などの重点施策を推進しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,515百万円（前年同期比65.2%増）、営業利益は1,150百万円（前年同期は営業損失759百万円）、経常利益は1,302百万円（前年同期は経常損失311百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は838百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失191百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① シュクレイ

シュクレイは、更なるブランド認知度の向上に向け、主力商品対策に注力するとともに、新商品及び限定商品の発売や母の日などのイベント対策の強化、期間限定出店の推進などに取り組みました。新規出店では、4月に阪神梅田本店に“チーズ with ハニー”をコンセプトにしたスイーツを展開する新ブランド「DROOLY（ドロリー）」を出店するなど、計3店の出店を行いました。その結果、売上高は3,818百万円（前年同期比90.5%増）、営業利益は579百万円（前年同期は営業損失234百万円）となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、道内店舗では、ルタオ周年祭の開催や店舗限定スイーツの発売など集客力の強化に努めました。道外店舗では首都圏で展開している「PISTA&TOKYO（ピスタアンドトーキョー）」、「Now on Cheese♪（ナウオンチーズ）」、「岡田謹製あんバター屋」において、主力商品対策の強化、限定商品の発売及び期間限定出店などに取り組みました。通信販売では、母の日などのイベント対策の強化に努め、また、自社ECでは、名前や住所を知らない相手にも気軽にギフトを送れる新サービス「ルタオeギフト」を導入し、お客様の利便性の向上を図りました。その結果、売上高は2,638百万円（前年同期比25.3%増）となり、営業利益は87百万円（前年同期は営業損失99百万円）となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、旅行土産需要の回復に備え、代理店及びグループ会社との連携強化を図り、新商品開発などに注力いたしました。また、山陰地区では、主力商品「因幡の白うさぎ」の対策強化、お菓子の壽城ではゴールデンウィークイベント開催などによる集客力の強化に努めました。新規営業では、「プロテインバー」による新たな販路開拓などに取り組みました。その結果、売上高は2,079百万円（前年同期比84.0%増）、営業利益は293百万円（前年同期は営業損失162百万円）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、交通拠点チャネルを重点に、主力商品対策の強化に努めました。また、関西地区では新商品「大阪はちみつクワトロフォルマッジ」、本家佳長「八坂圓堂監修京野菜てんぷらせんべい」の発売による売場獲得に注力し、また、自家需要対策として、岡山地区では新商品「天使の恋 白桃のチーズケーキ」を、東海地区では新商品「小倉トーストチーズケーキ」の拡販にも取り組みました。その結果、売上高は1,114百万円（前年同期比112.8%増）、営業利益は64百万円（前年同期は営業損失108百万円）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、長崎及び福岡地区において主力商品「九十九島せんべい」の対策強化、40周年を迎えた赤い風船「はなかご」のリニューアルなどに注力いたしました。また、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」では、「フレンチトーストフィナンシェ」などのギフト商品のポップアップショップの出店強化などに取り組みました。その結果、売上高は881百万円（前年同期比71.2%増）、営業損失は15百万円（前年同期は営業損失200百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。売上高は101百万円（前年同期比32.1%増）となり、営業損失は8百万円（前年同期は営業損失11百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、27,466百万円となり前連結会計年度末と比べ4百万円減少いたしました。

主な要因は、受取手形及び売掛金の減少(574百万円)、商品及び製品の増加(293百万円)、流動資産におけるその他の増加(168百万円)、現金及び預金の増加(125百万円)などによるものです。

負債は、7,191百万円となり前連結会計年度末と比べ77百万円増加いたしました。

主な要因は、流動負債におけるその他の増加(967百万円)、未払法人税等の減少(459百万円)、賞与引当金の減少(345百万円)、未払金の減少(145百万円)などによるものです。

純資産は、20,274百万円となり前連結会計年度末と比べ81百万円減少いたしました。

主な要因は、配当金の支払いによる減少(933百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による増加(838百万円)などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.3ポイント減少し73.8%となり、1株当たり純資産額は651円52銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期ともに前回公表数字(2022年5月13日付「2022年3月期決算短信」)からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,912,584	10,038,005
受取手形及び売掛金	3,767,856	3,193,100
商品及び製品	1,416,694	1,709,919
仕掛品	37,905	69,425
原材料及び貯蔵品	540,832	598,374
その他	128,925	297,030
貸倒引当金	△299	△293
流動資産合計	15,804,497	15,905,560
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,006,807	3,954,068
機械装置及び運搬具(純額)	2,031,524	1,968,982
工具、器具及び備品(純額)	296,244	292,374
土地	2,855,362	2,855,157
リース資産(純額)	8,144	7,533
建設仮勘定	9,471	11,557
有形固定資産合計	9,207,552	9,089,671
無形固定資産	142,219	132,334
投資その他の資産		
その他	2,321,415	2,343,784
貸倒引当金	△5,250	△5,250
投資その他の資産合計	2,316,165	2,338,534
固定資産合計	11,665,936	11,560,539
資産合計	27,470,433	27,466,099
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	922,666	1,022,822
1年内返済予定の長期借入金	239,880	239,880
未払金	952,012	806,661
未払法人税等	908,371	449,001
賞与引当金	767,274	421,476
その他	830,216	1,797,586
流動負債合計	4,620,419	4,737,429
固定負債		
長期借入金	485,980	426,010
退職給付に係る負債	1,815,031	1,839,216
その他	192,302	188,599
固定負債合計	2,493,313	2,453,825
負債合計	7,113,732	7,191,254

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	17,799,692	17,676,034
自己株式	△4,158	△4,371
株主資本合計	20,336,495	20,212,624
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,980	7,347
為替換算調整勘定	△6,118	38,864
退職給付に係る調整累計額	20,344	16,010
その他の包括利益累計額合計	20,206	62,221
純資産合計	20,356,701	20,274,845
負債純資産合計	27,470,433	27,466,099

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	5,758,304	9,515,305
売上原価	2,928,587	3,982,980
売上総利益	2,829,717	5,532,325
販売費及び一般管理費	3,589,162	4,381,889
営業利益又は営業損失(△)	△759,445	1,150,436
営業外収益		
受取利息	41	38
受取配当金	2,363	3,437
受取地代家賃	13,437	12,993
助成金収入	423,063	119,257
その他	13,038	18,122
営業外収益合計	451,942	153,847
営業外費用		
支払利息	302	152
その他	3,263	1,854
営業外費用合計	3,565	2,006
経常利益又は経常損失(△)	△311,068	1,302,277
特別利益		
固定資産売却益	—	127
特別利益合計	—	127
特別損失		
固定資産除却損	461	2,354
投資有価証券売却損	—	400
特別損失合計	461	2,754
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△311,529	1,299,650
法人税等	△119,817	460,672
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△191,712	838,978
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△191,712	838,978

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△191,712	838,978
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,898	1,367
為替換算調整勘定	△177	44,982
退職給付に係る調整額	1,396	△4,334
その他の包括利益合計	△1,679	42,015
四半期包括利益	△193,391	880,993
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△193,391	880,993

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

① 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、Honey Sucrey Limitedを連結の範囲から除いております。

② 非連結子会社の名称等

非連結子会社

Honey Sucrey Limited

（連結の範囲から除いた理由）

総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等から見て、連結の範囲から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体として重要性がないため、連結の範囲から除外しております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（四半期連結貸借対照表関係）

（当座貸越契約）

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第1四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
当座貸越極度額の総額	7,800,000千円	7,800,000千円
借入実行残高	—	—
差引額	7,800,000千円	7,800,000千円

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り）

当第1四半期連結累計期間においては、前連結会計年度の有価証券報告書の「重要な会計上の見積り」に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	1,945,230	2,053,737	757,695	522,186	402,812	5,681,660
セグメント間の内部売上高又は振替高	59,689	52,419	372,572	1,510	112,159	598,349
計	2,004,919	2,106,156	1,130,267	523,696	514,971	6,280,009
セグメント利益(△は損失)	△234,791	△99,109	△162,270	△108,639	△200,954	△805,763

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	76,644	5,758,304	—	5,758,304
セグメント間の内部売上高又は振替高	199	598,548	△598,548	—
計	76,843	6,356,852	△598,548	5,758,304
セグメント利益(△は損失)	△11,130	△816,893	57,448	△759,445

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。なお、香港事業は、現在、清算手続中であります。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額57,448千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額202,227千円、セグメント間取引消去額3,545千円、棚卸資産の調整額911千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△149,235千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイセイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,684,374	2,561,272	1,409,393	1,103,009	655,839	9,413,887
セグメント間の内部売上高又は振替高	134,314	76,795	670,367	11,639	225,627	1,118,742
計	3,818,688	2,638,067	2,079,760	1,114,648	881,466	10,532,629
セグメント利益(△は損失)	579,932	87,652	293,530	64,178	△15,414	1,009,878

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	101,418	9,515,305	—	9,515,305
セグメント間の内部売上高又は振替高	79	1,118,821	△1,118,821	—
計	101,497	10,634,126	△1,118,821	9,515,305
セグメント利益(△は損失)	△8,841	1,001,037	149,399	1,150,436

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。なお、前連結会計年度まで「その他」のセグメントに含まれていた香港事業会社Honey Sucrey Limitedは、当第1四半期連結会計期間において、重要性の低下に伴い連結の範囲から除いております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額149,399千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額321,128千円、セグメント間取引消去額3,706千円、棚卸資産の調整額△21,962千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△153,473千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。